

Title	編集後記
Sub Title	
Author	竹村, 英樹(Takemura, Hideki)
Publisher	三田社会学会
Publication year	1996
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.1 (1996.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-19960000-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

表紙にある三田社会学という題字は、福沢諭吉の字である。もちろん、福沢先生が横書きで三田社会学という文字を書いたことはない(と思う)。「題字を福沢先生の字で」というアイデアは、編集委員長の山岸先生の発案である。私は6月初旬の午後、旧図書館にある福沢研究センターに佐志傳先生を訪ねた。佐志先生以上に福沢先生の直筆を日頃からご覧になっている方はいないはず、と聞いたからである。事情を説明すると、佐志先生は『福沢諭吉遺墨集』(慶應義塾図書館編、審美書院、昭和7年)という和綴本を持ってきて下さって、三田社会学の5文字を一緒に探して下さい。「三田」という字はいろいろ見られたが、「三田茶話会」についての書(『遺墨集』四五)が良いように思われた。また、「社会学」という字は「慶應義塾の目的」(『遺墨集』五八)の中に見つかった。もちろん、「社会学」と3文字が並んでいるわけではない。「慶應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得ず...」という冒頭から「学」を、「...躬行実践以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり」という最後の箇所より「社会」を採っている。こうして見つけた2文字と3文字をコピー機で拡大し調整し、ハサミと糊で切り貼りして表紙の題字が出来上がった。

題字の下にある時計の写真はいうまでもなく旧図書館外壁にある時計である。この写真は著作権フリーで広報課から貸してもらった。写真を印刷するので表紙は淡い色のものを、ということで、若草色の色上質紙(最厚口)を選んだ。もっとお金をかければ、より良質の表紙に写真もカラーで印刷できたのだが、それだけで経費が3割増となるので諦めた。学会財政状況を考えると、なるべくお金をかけないことが事務局の編集方針であったからである。執筆者や編集委員から事務局へはすべてフロッピーディスクで原稿をもらい、ひとつのワープロソフトで編集し版下を作成した。いわゆる、DTP(Desk Top Publishing)である。このDTP方式が低予算なので学会誌発行を可能にした。

ようやく、投稿論文、特集、書評、リプライの執筆者諸氏の玉稿を学会誌という形にすることができた。企画考案から、締切りの催促、手書き原稿のワープロへの打ち込みなど、担当編集委員諸氏の汗が三田社会学に結実した。現在の学会のマンパワーと財政状況で発行できる最良のものが発行できたのではないか。

(竹村英樹)

編集委員会

山岸 健(委員長) 小川浩一 永田 えり子 草柳 千早
有末 賢(事務局) 竹村 英樹(事務局)

三田社会学

創刊号

発行 1996年7月13日

編集発行:三田社会学会

〒108 東京都港区三田2-15-45

慶應義塾大学法学部大石裕研究室内

Fax 03(3798)7480

印刷:梅沢印刷所

300部発行 : 頒価 1,000円